



有形文化財（工芸品）

37. 黒漆朱描瓶子 こくしつしゅびようへいし 2口一対 くち

■指定年月日 昭和37年2月13日(1962)

■寸法 総高 33.0cm 口径 3.5cm  
肩張 25.2cm 高台径 17.0cm

■所在地 三崎町雲津

■所有者 個人

木製。ろくろ挽。総黒漆塗り。張り出した肩の上に、ヒイラギ、胴から腰にかけての側面にモモ・ウメを朱色の漆で描いている。その形はシンプルにイメージ化されていることと、葉脈などは針で掻いて黒地を出すなどの技法を巧みに取り入れている点に特色がある。

瓶子は主に酒壺として使われた器だが、徐々に極端な締め腰形に変化したことで、使い勝手が悪くなり、普段使いには徳利が用いられ、瓶子は御神酒を入れる儀式用となっていった。

この瓶子は、天正年間（1573-1592）、正院川尻城（珠洲市正院町）の城主長景連ちようかげつらから拝領したと

伝承している。制作年代もそれに近い頃（室町時代後期）とみてよい優品である。

所有者は、近世初期の十村役を務めた旧家である。